

BCAO仙台地域勉強会（2021年3月5日）議事録  
（「企業・組織のBCP／防災勉強会@仙台」と合同開催）

1. 日時：2021年3月5日（金）17時から18時30分まで
2. 場所：ZOOM
3. 参加者：＜50音順＞（敬称略） 計13名  
\*事務局：丸谷（災害研）、伊藤（東北大公共）、和田山（東北大公共）

議 題：1. 「2月13日の福島県沖の地震について」

（災害研の調査資料の紹介と参加者の皆様の間での情報交換）

説明：東北大学災害科学国際研究所 丸谷浩明

福島県沖地震について災害科学国際研究所の調査結果を報告

東北大学災害科学国際研究所 佐々木宏之

地震の際の宮城県内の医療機関の対応について報告

Q： 各参加者の所属組織の地震当日の被害状況と対応について情報提供いただきたい。

A： 公共土木施設に大きな被害はなかった。震度のわりに被害も少なく自治体との連絡も短時間で終わった。沿岸部で瓦屋根の被害が多かったらしく、ブルーシートの要請があった。

A： 当社の物流拠点には大きな被害はなかった。すぐに被害状況の確認を実施し、本格的な被害状況調査は翌朝行った。また、トラック等は数時間で被害がないことが確認できた。

A： 山元町で断水が発生したことから要請があり、パンやおにぎり、牛乳や飲料水、ミカンやバナナ、紙皿といった需要の高まりそうなものを配送した。通信での連携が取れていたため、今回は円滑に業務ができた。

A： 丸森町は停電が発生したが、朝には全域で復旧した。

A： 11店舗でスプリンクラーの漏水により、一時休業を余儀なくされた。

C： 東北大学では、講義棟で一部被害があった。研究所は、震度6で全員参集となっていたが、夜間であり参集経路の坂や橋が危険なことから、電話、ネットで連絡がついたことから、参集を取りやめた。コロナ対応でオンラインを使用した訓練を実施していたので、そのスキームを使用した。

議事②： 「BCPで海外拠点を活用する場合の諸課題について」

Q： 南海トラフ・首都直下の2つの地震が発生した場合、北海道、東北、日本海側なども様々な影響が想定されるため、BCP発動基地局を海外拠点も検討している。国によっ

て情報統制などBCP発動のネックになるような行為も想定したい。日本と各国ではなにか取り決めがされているか。

A: 国は、多国間のサプライチェーンの調整に積極的には関与はしていないと思う。今回のコロナでは、中国が全土で経済活動を制したため、中国国内に複数拠点があっても代替とならなかったなど、中国は政治的な要因でのカントリーリスクがある。そこで、日本の被害を受けていない拠点に人員を集める運用が現実的ではないか。南海トラフが発生した際には、東北の拠点对応の中心となるだろう。東京の被害は東日本大震災と同程度と見積もって、東京のバックアップを仙台が担うなど。